

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-----------------------|--|--|-------|----|---------|--------|---|------|------|------------|---|------|-----|-------------|---|------|-----|
| 大阪リゾートアンドスポーツ専門学校 | 平成30年3月19日 | 徳 幸道 | 〒532-001 大阪府大阪市淀川区西中島3丁目6番2号 (電話) 06-6886-7897 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人三幸学園 | 昭和60年3月8日 | 昼間 一彦 | 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文化・教養 | 社会体育専門課程 | スポーツトレーナー科 | 平成21年文部科学省告示第21号 | - | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 世の中の困難を希望に変える「をミッションとし、学校基本法に基づき、スポーツトレーナー・健康運動実践指導者・スポーツインストラクター・トレーニング指導者・リゾート施設要員・レジャースポーツインストラクターとして、社会体育及びリゾートビジネスに従事しようとする者に必要な職業実践的かつ専門的な知識・技能を教授し、明日のトレーナー業界・スポーツ業界・健康産業及びリゾート産業、レジャー産業を即戦力として担う事ができる人材を養成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成28年2月19日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 昼間 | 1,941時間 | 1,084時間 | 34時間 | 210時間 | - | 1,368時間 | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | |
| 300人 | 302人 | 1人 | 30 | 83 | 113 | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法とする。 教科ごとに定められた評価方法で評価する際、100点法で満点を出し、それを20で割り四捨五入し、5点法に換算する。その後、授業態度、出席状況を考慮し、1ランクの上下を認める。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～4月16日 ■夏季:7月21日～8月26日 ■冬季:12月21日～1月6日 ■学年末:2月16日～3月31日 | | 卒業・進級条件 | 教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平常の成績および品行を斟酌して認める。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡並びに、三者面談等を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。 | | 課外活動 | ■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等ボランティア活動 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) ミス/スポーツサービス株式会社 株式会社ファクトリージャパングループ 他多数 ■就職指導内容 生徒一人につき、二名の教員がサポートにあたるダブルフォローアップシステムを実施している。業界研究や個人面談で個人に合わせた就職指導を実施している。 ■卒業者数: 119 人 ■就職希望者数: 117 人 ■就職者数: 111 人 ■就職率: 94.8 % ■卒業者に占める就職者の割合: 93.2 % ■その他 進学1名・留学1名 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定3級</td> <td>③</td> <td>141名</td> <td>74名</td> </tr> <tr> <td>スポーツトレーナー検定</td> <td>③</td> <td>131名</td> <td>45名</td> </tr> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 | | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | サービス接遇検定3級 | ③ | 141名 | 74名 | スポーツトレーナー検定 | ③ | 131名 | 45名 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サービス接遇検定3級 | ③ | 141名 | 74名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スポーツトレーナー検定 | ③ | 131名 | 45名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 12名 ■中退率 4.5 % 平成29年4月1日時点において、在学者266名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者254名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見、解決する。 ・欠席が続く生徒には、早い段階で保護者へ連絡し、保護者の協力を仰ぐ。 ・入学前と入学後のギャップを埋めるために、入学直前に入学予定者向けと保護者に向けた学校生活や実習・就職等に関する説明を実施している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ※有の場合、制度内容を記入 ・特待生制度による授業料減免措置 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.sanko.ac.jp/osaka-sports/course/trainer/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員を含む)として就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職者が就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

主に生徒の就職先となる業界を牽引する企業等との連携を通じて、必要な情報の把握・分析を行い、実践かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に活かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、より正確にスポーツ業界・フィットネス業界の動向や求められる人材要件を把握する為、生徒の就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を高め、幅広く連携図ることで、業界のニーズを確実に捉え、カリキュラムや授業内容に反映する。

更には、実習先である企業に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、或いは必要とされる能力を把握する。これらの事によって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は大阪リゾートアンドスポーツ専門学校と企業関係者等の役職員(以下、外部委員)から成るものとし、審議を通じて示された企業等の養成その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月20日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|----------------------|------------------|----|
| 岩崎 真宏 | 一般社団法人 日本栄養コンシェルジュ協会 | H30.4.1~H31.3.31 | ① |
| 穂園 久夫 | 株式会社ルネサンス | H30.4.1~H31.3.31 | ③ |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時(実績))

第1回 平成30年10月10日 14:00~16:00

第2回 平成31年2月に実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

【ご意見】運動・栄養・休養という考えがフィットネスクラブにも入ってきており、トレーナーも運動だけを担うものではなくってきている。栄養に関しての情報そのものの提供はサービスではないので、トレーナーとしてその知識をどうお客様に還元し、成果・継続につなげていくかが重要である。

【活用状況】

学園としても栄養学の授業に関して、今年度より1年生で実施のスポーツ栄養学のコマ数を前期2コマ・後期2コマに変更。(変更前は前期2コマのみ)基礎的な内容に加えて、運動・スポーツ時における栄養について実践的な内容を実施している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- 実務卓越性を目指した教育課程における技能、技術の向上、業界において必要とされる知識、ならびに職業観を育むに足りる新技術・知識の習得を目指した職業実績的教育の実施を目的として、スポーツトレーナー及びパーソナルトレーナーが第一線で活躍しているフィットネス業界の企業と競技系スポーツチームと連携し、専門的な知識を持ち、実務経験豊富な講師の下、専門施設やフィットネスクラブを活用した授業を行う。その際、以下の点を特に考慮する。
- ① 授業の内容は、企業がOJTとして行なっている内容を学生用にアレンジしたものとし、即戦力として活躍するために必要な能力を高めるものとする。
 - ② 他科目の学習進度を把握した上で授業を展開し、知識や技術のアウトプットを繰り返し求めることを通じて学習の定着を促進する。
 - ③ 個人及び集団としての様々な顧客と関わり、自己の運動指導者としての幅を広げる。
 - ④ フィットネスクラブに所属する従業員が果たす社会的役割及び職務内容を理解し、実際の運動指導サービスが従業員全員の協働と責任によって進められていることを学ぶ。
 - ⑤ 自らの指導者観や職業観、現代の社会についての考え方を深め、運動指導者となるための自覚を持つ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

受け入れる側の企業の方のご意見を参考に、実習に先立ってのガイダンスを実施。実習への動機づけや取り組み姿勢などを、担任教員からだけでなく、実習担当の教員からも伝えることで、実習の位置づけを明確にしている。また、実習の成績は企業の方に実施いただき、教員の実習巡回時には成績表に反映されない生徒の様子を聞き、生徒へフィードバックしている。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|--------------|--|--|
| 総合演習Ⅰ | 関連する企業と連携し、学校で習得したことを活かして、同級生や一般の方にアウトプットする。企画～振り返りまでのサイクルを学び体験することで、仕事の進め方の基本を学ぶ。 | 株式会社ルネサンス |
| 総合演習Ⅱ | 「総合演習Ⅰ」に続き、関連する企業と連携し、学校で習得したことを活かして、同級生や一般の方にアウトプットする。企画～振り返りまでのサイクルを学び体験する事で、仕事の進め方の基本を学ぶ。 | 株式会社ルネサンス |
| スポーツトレーナー特論Ⅰ | スポーツトレーナーの種類や役割を理解する。そして、今後始まる現場実習に必要な知識・技術を理解し、実践する。 | 株式会社Enjoydream Holdings |
| スポーツトレーナー特論Ⅱ | スポーツトレーナーの種類や役割を理解する。後期より開始している現場実習に必要な知識・技術を習得し、現場で実践する。 | 株式会社Enjoydream Holdings |
| 関連施設実習Ⅰ | 学校で習得したことを、授業という枠組みの外で実際に関連施設を利用している顧客に提供することで実戦経験を増やし、卒業後に即戦力として働くための現場力を身につける。 | 株式会社ルネサンス 株式会社Enjoydream Holdings NPO法人アミティエ・スポーツクラブ |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日のスポーツトレーナー業界を担う人材を育成するためには、教員ひとりひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身に付けようという向上心が無ければならない。

その為に、以下の通り教員研修の環境を整える。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ、専門的な知識・技術・能力を修得しする為に研修
- ・指導力の修得・向上のための研修

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「フィットネスの世界的潮流 世界最先端の知を日本のクラブ経営に活かす！」(連携企業等:株式会社クラブビジネスジャパン)

期間:9月19日(水) 対象:スポーツトレーナー科担当教員

内容:世界のフィットネス市場の現状を踏まえ、今後のフィットネス業界の世界潮流について事例を挙げながら今後、日本において継続的にフィットネス・スポーツクラブ施設を運営するために必要な要素について、またトレーナーとして成功するためのヒントについてをお話いただいた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「クラス運営の為に知っておきたい5つのこと」(連携企業等:(株)アビリティトレーニング)

期間:3月20日(火) 対象:全教職員・授業を受け持つ講師

内容:有名塾講師をされていた講師の方より、クラス運営において重要とされる5つのポイントについて、ご自身のご経験を交えながらお話いただく。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「フィットネス業界のトレンドとクラブマネジメント検定の現状」(連携企業等:一般社団法人 日本フィットネス産業協会)

期間:10月10日(水) 対象:担任を持つ教員

内容:多くの学生の就職先であるフィットネス業界のトレンドをお話しいただくとともに、昨年より始まったフィットネス分野初の国家資格である「フィットネスクラブマネジメント検定」の現状をお話いただき、検定の理解を深める。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 未定 」(連携企業等: 未定)

期間:3月20日(水) 対象:全教職員・授業を受け持つ講師

外部講師や学園内講師による理念研修や指導現場で持つ課題に対する解決法に対する研修を実施。

外部講師による「生徒を惹きつける授業」に関する研修を実施。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、スポーツトレーナー分野の業界関係者及び卒業生、高校教員と共に、学校関係者評価委員会を設置し、当該専門分野における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (1) 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | (2) 学校運営 |
| (3) 教育活動 | (3) 教育活動 |
| (4) 学修成果 | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援 | (5) 学生支援 |
| (6) 教育環境 | (6) 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | (7) 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | (8) 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | (9) 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | - |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1) 教育理念・目標

【ご意見】

理念を周知・浸透させるには、言い続ける・確認し続けることが重要であり、いろんな場面で学校の理念やキーワードとなる言葉を出し続けていくことが大事だと感じる。また、AIが普及してきており、仕事の一部はAIにもできるようになってきているが、「感性」の部分は自分たちが勝負できる部分。その部分をしっかり育てていく必要がある。

【活用】

業界への理解を深める内容をホームルーム、就職対策、実習ガイダンスなどで実施し就職先と人材像を結びつける。また、全教員対象の会議の場でも、学校の教育理念を繰り返し確認していく。

(2) 学校運営

【ご意見】

コミュニケーションは意見を出しやすい環境において時間を決めて実施していくことが大事。デジタルをうまく活用し、情報の共有などは効率化を進めるとよい。

【活用】

業務ごとにかかる時間を見える化し、業務自体の見直し(廃止・集約化・標準化・自動化)することで、教員間・教員と生徒間のコミュニケーションを取る時間を増やす。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月20日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|---------------------------------|------------------|------------|
| 西鶴 和博 | ミスノスポーツサービス株式会社 | H30.4.1~H31.3.31 | スポーツ業界関係者 |
| 濱田 和樹 | 日本トレーニング指導者協会 近畿支部 支部員 | H30.4.1~H31.3.31 | トレーナー業界関係者 |
| 高橋 美穂 | 学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校大阪キャンパス キャンパス長 | H30.4.1~H31.3.31 | 高校関係者 |
| 大久保 崇 | 特定非営利活動法人幸人会就労移行支援施設あしなが理事長 | H30.4.1~H31.3.31 | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:http://www.sanko.ac.jp/osaka-sports/pdf/kankeisyahyouka_osaka.pdf

公表時期:平成30年7月公開

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげる。また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、1人1人の能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等の企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善に繋げつことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|--------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | ●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史) |
| (2) 各学科等の教育 | ●三幸学園の教育 ●学科・専攻紹介 ●資格・就職 |
| (3) 教職員 | ●講師紹介 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | ●インターンシップ ●各種ボランティア |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | ●施設紹介 |
| (6) 学生の生活支援 | ●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし |
| (7) 学生納付金・修学支援 | ●募集学科・学費 ●学費サポート制度 |
| (8) 学校の財務 | ●監事監査報告書 ●資金収支計算書 |
| (9) 学校評価 | ●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書 |
| (10) 国際連携の状況 | - |
| (11) その他 | - |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

| (社会体育専門課程スポーツトレーナー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|------|------|-----------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|---|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | |
| ○ | | | 機能解剖学 | ヒトの動きを考える時には解剖学的な知識が欠かせません。この授業では骨格筋、骨・関節、腱、靭帯の構造と機能について学習していく。 | 1 | 70 | 4 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 身体運動の基礎科学 | 運動指導を行う上で、身体の構造と機能に関する知識は欠かせません。この授業では、身体運動のしくみと運動による身体の生理的変化を学習していく。 | 1 | 70 | 4 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | スポーツ栄養学 | 体づくりや機能向上をサポートする上で、正しい栄養の知識は欠かせません。この授業では運動指導の際に必要な栄養学の基礎をベースとした食事戦略を学習していく。 | 1 | 70 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 運動障害の予防と応急処置 | 運動指導を行う上で、内科的および外科的障害とその応急処置に関する知識は欠かせません。この授業では内科的および外科的障害についてとその応急処置の方法を学習していく。 | 1 | 52 | 3 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | トレーニング理論 I | トレーニングを指導する上で、各種トレーニングの理論は欠かせません。この授業では、トレーニング目的に応じて合理的・効率的にトレーニングを進めていくための実践理論について学習していく。 | 1 | 35 | 2 | ○ | | | | ○ | | | | |
| ○ | | | サービス業の基礎知識 | サービスを提供する上で、相手に好印象を与えることのできる接客・接遇は欠かせません。この授業では、立ち居振る舞いや言葉づかい、お客様対応など、好印象を与えることのできる接客・接遇の理論を学習していく。 | 1 | 17 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | 運動指導の心理学 | 運動指導を行う上で、行動を促したり、動機づけするための知識・技術は欠かせません。この授業では、行動への理論やモデルおよび技法について学習していく。 | 1 | 36 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | トレーニング実践 I | トレーニングを指導する上で、実技技能（デモンストレーション能力）は欠かせません。この授業では、ストレッチトレーニングの正しい実施方法と正しいトレーニングフォームを学習していく。 | 1 | 70 | 2 | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | トレーニング指導実践 I | トレーニングを指導する上で、実技技能（デモンストレーション能力）と知識は欠かせません。この授業では、他者へ指導していただくことで、これまでに学んだ実技技能と知識の定着を図ると共に、現状の定着状況が明らかになることによって、何が必要かを自分自身で学習していく。 | 1 | 70 | 3 | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | プレゼンテーション | 運動指導を行う上で、相手に伝わる伝え方の知識・技術は欠かせません。この授業では、伝え方や話の組み立て方など、相手に伝わるプレゼンテーションを学習していく。 | 1 | 35 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | コミュニケーショントレーニング | 顧客や職場のスタッフと良好な人間関係を築き業務を円滑に遂行するためにコミュニケーション技術は欠かせません。この授業では、コミュニケーションの本質を理解し、集団の中で効果的に議論するための技術を学習していく。 | 1 | 70 | 4 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | 測定評価とプログラミング | 運動指導を行う上で、指導対象者の現状把握は欠かせません。この授業では、主に体力要素の測定と評価について学習していく。 | 1 | 36 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| ○ | | | コーチング理論 | 運動指導を行う上で、相手の目標達成を支援するための技術は欠かせません。この授業では、顧客の目標達成を実現するためのかわり方について学習していく。 | 1 | 36 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------------------|--|---|-----|---|---|--|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|---|
| ○ | | 未来デザイン プログラムⅠ | フランクリン・コヴィ어의「7つの習慣」を元に、成功するための思考行動習慣の法則を体系的に学んでいく。 | 1 | 35 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | スポーツテー ピング実践Ⅰ | スポーツ現場で頻りに発生する外傷・障害の対処にテーピングは欠かせません。この授業では、各部位の外傷・障害に対するテーピングの理論と巻き方を学習していく。 | 1 | 36 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | グループエク ササイズ指導 実践Ⅰ | 運動指導を行う上で、集団指導を行うための知識・技術および楽しさの提供は欠かせません。この授業では集団指導を行うための知識・技術や楽しく運動するための要素である、音楽に合わせて行う指導等、グループエクササイズに必要な技術を学習していく。 | 1 | 36 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | スポーツスト レッチ実践 | スポーツトレーナーにとってストレッチに関する正しい知識と技能は必要不可欠なものである。スポーツトレーナーに必要なストレッチに関する正しい知識と技能を学習する。 | 1 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | スポーツト レーナー特論 Ⅰ | スポーツトレーナーの種類や役割を理解する。そして、今後始まる現場実習に必要な知識・技術の理解と実践していく。 | 1 | 34 | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | スポーツコー チング理論 | 運動指導を行う上で、指導者に対するニーズを理解することや指導対象者への心理面の考慮は欠かせません。この授業では、トレーニング指導者の役割や身につけるべき能力、運動やスポーツにおける心理面のかかわりについて学習していく。 | 1 | 36 | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 関連施設実習 Ⅰ | 学校で習得したことを、授業という枠組みの外で実際に関連施設を利用しての顧客に提供することで実戦経験を増やし、卒業後に即戦力として働くための現場力を身につけていく。 | 1 | 108 | 3 | | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 総合演習Ⅰ | 運動指導現場では、様々な現場の状況に応じて、どのように企画立案、集客を行うことができるか、どのように知識・技術を活用し、提供することができるか、どのように立ち居振る舞うことができるかが求められます。この授業では、実際に運動指導現場で活動することができるよう、仕事の進め方の基本、現場で求められる力を学習していく。 | 1 | 34 | 2 | | | △ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 総合演習Ⅱ | 運動指導施設では、専門的な知識・技能だけでなく、自ら考え行動する主体性、周りと協力しながら仕事を進める協調性・計画性、相手にわかりやすく様々なことを伝えるコミュニケーション能力などが求められます。この授業では、自分たちで研究や企画内容を決定し、それを実践していくことを通じて、運動指導施設で求められる力を身につけていく。 | 1 | 36 | 2 | | | △ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 動作分析とプ ログラミング | 運動指導をするにあたり、人の動きの特徴を知った上で運動内容を提供する必要がある。この授業では、動作分析のポイントや運動プログラムの提供などを学んでいく。 | 2 | 34 | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | トレーニング 理論Ⅱ | トレーニングⅠに続き、各種トレーニングの理論は欠かせません。この授業では、トレーニング目的に応じて合理的・効率的にトレーニングを進めていくための更に実践理論について深く学習していく。 | 2 | 17 | 1 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | トレーニング 実践Ⅱ | トレーニング実践Ⅰに続き、実技技能（デモンストレーション能力）は欠かせません。この授業では、ストレングストレーニングの正しい実施方法と正しいトレーニングフォームに加え、実践・指導面を深く学習していく。 | 2 | 34 | 1 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ |
| ○ | | トレーニング 指導実践Ⅱ | トレーニング指導実践Ⅰに続き、トレーニングを指導する上で、実技技能と知識は欠かせません。この授業では、他者へ指導してみることで、これまで学んだ実技技能と知識の定着を図ると共に、現状の定着状況が明らかになることによって、何が必要かを自分自身で深く学習していく。 | 2 | 70 | 3 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ |
| ○ | | アプリケー ション演習 | 多様化・複雑化するIT関連に対応すべく、PCの基礎知識からエクセルやワード・スカイプ・ブラウザなど、規模の大小を問わず「具体的な作業を目的としているソフト」を知り、学習していく。 | 2 | 34 | 2 | | | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 未来デザイン プログラムⅡ | 「未来デザインプログラムⅠ」に続き、フランクリン・コヴィ어의「7つの習慣」を元に、成功するための思考行動習慣の法則を体系的に学ぶ。 | 2 | 17 | 1 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 健康づくり施 策と運動の実 際 | 健康づくりに生活習慣病の予防・改善に向けた運動指導の基礎知識は欠かせません。この授業では健康づくりやリスク管理について、理解した上で、生活習慣病の予防・改善の指導を学習していく。 | 2 | 70 | 4 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------|--|---|----|---|---|--|--|---|---|--|--|--|--|--|--|---|---|
| ○ | ○ | スポーツトレーナー特論Ⅱ | JATI認定トレーニング指導者のテキストにて科目習得度を深めるとともに、認定試験の出題傾向をつかみ、認定試験合格を目指し、学習していく。 | 2 | 70 | 4 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | ○ | ボディリラクゼーション実践 | 指圧・マッサージの基本手技を学び実践する。手技を通じて、1年次に学習した機能解剖学の復習。各症状に応じたマッサージの手技を、解剖学を理解し各部位の評価を交えて実践しながら学習していく。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | ○ |
| ○ | ○ | スポーツテーピング実践Ⅱ | スポーツテーピング実践Ⅰに続き、スポーツ現場で頻繁に発生する外傷・障害の対処にテーピングは欠かせません。この授業では、各部位の外傷・障害に対するテーピングの理論と巻き方を深く学習していく。 | 2 | 34 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| ○ | ○ | グループエクササイズ指導実践Ⅱ | グループエクササイズ指導実践Ⅰに続き、運動指導を行う上で、集団指導を行うための知識・技術および楽しさの提供は欠かせません。この授業では集団指導を行うための知識・技術や楽しく運動するための要素である、音楽に合わせて行う指導等、グループエクササイズに必要な技術を深く学習していく。 | 2 | 34 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| ○ | ○ | コアコンディショニング指導実践 | 運動指導を行う上で、コンディショニングを学ぶことは欠かせません。この授業では、各部位におけるストレッチの手法や運動指導において重要となるコンディショニングを各競技ごとに学び、コアについて特化して学習していく。 | 2 | 34 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| ○ | ○ | パーソナルトレーナー実践 | パーソナルトレーナー、ストレングスコーチ等トレーニング指導者に要求されるエクササイズの実技能力、指導方法や補助方法を習得する。また、自らの身体を変える方法を自らの身体で学習していく。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| ○ | ○ | ファンクショナルトレーニング指導実践 | トレーニングをする上で、機能性を踏まえたトレーニングを学ぶことは欠かせません。この授業ではパーソナルトレーナーとしての基礎理論を習得し、適切な運動プログラムを作成、実践できること学習していく。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| ○ | ○ | リコンディショニング実践 | 運動指導において身体機能の改善（再生）を知っておくことは欠かせません。この授業ではコンディショニングに関わる身体的要素を理解し、それらを実演することや指導することを学習していく。 | 2 | 36 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| ○ | ○ | カウンセリング実践 | 運動指導において実施者の状況を聞き出す・把握することは必要不可欠です。この授業では問診（聞き出す・把握する）の必要性・仕方などを学習していく。 | 2 | 36 | 2 | ○ | | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| ○ | ○ | メディカルトレーナー実践 | 機能解剖学やスポーツ医学の復習をしながら、各部位、外傷ごとの評価法を学ぶ。外傷・障害の評価や姿勢評価、動作評価を行い、その後の対処方法も習得する。各部位ごとのスペシャルテスト、関節可動域の測定方法も理解し実践できるよう学習していく。 | 2 | 70 | 2 | ○ | | | △ | ○ | | | | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------------------|---|------|-----|---|-----------|--|--|--------|---|--|--|---|--|---|
| ○ | リハビリテーショントレーニング実践 | リハビリテーションの基本原理やスポーツ現場における一般的・代表的な疾患別リハビリテーションプログラム作成におけるガイドライン及び実施方法、競技別リハビリテーションプログラム作成におけるガイドライン及び実施方法について学習・理解し、最終的にプログラムの立案・指導ができるよう学習していく。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | サッカートレーナー実践 | 日本サッカー協会公認C級コーチ実技講習を授業内容の中心とし、指導者としての観る目を養いながら、協議技術を学ぶ。後期は、トレーナーとして必要なトレーニング方法、メニュー処方等を学ぶ。 | 2 | 70 | 2 | ○ | | | △ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | サッカーのフィジカルトレーニング実践 | 本人が見本としてトレーニング実技が正しくできるのはもちろんであるが、指導者としての視点で「トレーニングの動き」をチェックできるようにする。すなわち、実際の現場での指導方法を学ばせる。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | サッカーのコンディショニング実践 | コンディショニング（サッカーの特性を考慮）に関わる身体的要素を理解し、それらを実演することや指導することを目的とする。 | 2 | 72 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | 野球トレーナー実践 | 野球選手のためのストレッチング、マッサージ、また投球、打撃、走塁、戦略の理解、実践、そして指導法を学ぶ。パフォーマンスの向上と傷害予防の両方を理解し、それらを指導するための知識と方法論を専門的に学ぶ。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | 野球のコンディショニング実践 | コンディショニング（野球の特性を考慮）に関わる身体的要素を理解し、それらを実演することや指導することを目的とする。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | 野球のリハビリテーション実践 | リハビリテーションの基本原理や一般的な疾患別リハビリテーションプログラム作成におけるガイドライン及び実施方法について学習し、理解する。また、野球選手に多い傷害のリハビリテーションについても学ぶ。 | 2 | 72 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | ビューティートレーナー実践 | 身体と心に働きかけるヨガは、現代社会において急激に広がっています。スポーツ業界、健康業界、介護業界等でも人気が高まっています。効果的なヨガの実践法を学び、ヨガ指導者の基礎知識を学習する。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | ボディメイキング実践 | 運動を中心とするボディメイキング（有酸素運動、レジスタンス運動、コアトレーニング）の考え方と方法を学ぶ。また、女性が陥りやすい肥満について原因と状態を把握し、現場で指導出来る能力（カウンセリング能力+指導実践能力）を身につける。 | 2 | 70 | 2 | | | | ○ | ○ | | | | | ○ |
| ○ | サプリメント栄養学 | 食べたもので身体は出来ています。栄養についての基本をおさえ、サプリメントやカラダづくりについての素朴な疑問に答えられる知識を身につけます。健康的なカラダをつくり、社会に貢献します。 | 2 | 34 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | | ○ |
| ○ | 美容カウンセリング実践 | 女性のニーズを知り、美と健康についての知識とそれらを手に入れる為の方法論を学ぶ | 2 | 34 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | | ○ |
| ○ | 関連施設実習Ⅱ | 卒業後の進路を見据え、専門分野での現場実習を行う。学校で習得した知識や技術をアウトプットする機会を通じて習熟を高めていく。また社会人と時間を共にすることで、卒業後に必要な社会性を身につける。 | 2 | 102 | 3 | | | | ○ | | | | ○ | | ○ |
| 合計 | | | 51科目 | | | 2696単位時間(| | | 107単位) | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---|----------|-------|--|
| 【履修方法】 ●単位の認定は、下記事項に該当する者については校長が行う。 評価は5段階評価とし、「2」以上の者。 授業時数の欠席数が1/3を超えない者 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果履修状況等を総合的に勘案して行う。 【卒業要件】 教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績および性行を斟酌して認める。 | 1学年の学期区分 | 2期 | |
| | 1学期の授業期間 | 17週 | |
| | | 18週 | |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。